

# 第4回

---

## ユニバーサルキャンプ in 八丈島 報告書

2008.9.6 ~ 9.8



2008年 10月



特定非営利活動法人(NPO)

ユニバーサルイベント協会

# 感謝

ユニバーサルキャンプは  
多くの方々のお力添えにより実現しました

## 【後援】

国際ユニヴァーサルデザイン協議会  
社団法人日本イベント産業振興協会

## 【研修協賛】

株式会社岡村製作所  
株式会社スリーライト  
株式会社日本能率協会マネジメントセンター  
富士通株式会社  
松下電器産業株式会社

## 【協賛】

株式会社アイズ  
アサヒアイドマ株式会社  
株式会社アセント  
株式会社アダチ  
石山盛也  
岩波映像株式会社  
株式会社エクスプレス工業社  
江崎グリコ株式会社  
エントロス株式会社  
大塚製薬株式会社  
カバヤ食品株式会社  
株式会社教映社  
協和発酵工業株式会社  
キリンビバレッジ株式会社  
麒麟麦酒株式会社  
株式会社光和  
株式会社コミュニケーションシステムラボラトリー  
株式会社サンク・アール  
株式会社三恵社  
株式会社三秀舎  
株式会社シナノ  
株式会社島一  
株式会社昭栄美術

## 【協賛 —続き—】

株式会社誠興社  
株式会社セイメイ社  
株式会社丹創社  
株式会社テクノアート  
DBA (デザイン・ブレン・アソシエイツ)  
東京海上日動火災保険株式会社 東東京支店  
浅草支社  
株式会社東宝映像美術  
ナカシャクリエイテブ株式会社  
株式会社日創工芸  
日本通運株式会社 秋葉原支店  
株式会社バイオセレント  
P C Y limited liability company  
株式会社ヤマネ

## 【協力】

NPO江戸川手話通訳者協会  
株式会社JTB首都圏 上野支店  
株式会社創環  
ちょんこめ作業所  
NPOニュースタート事務局  
八丈町の皆さん  
ピアサポート株式会社  
NPO野外活動教育振興会

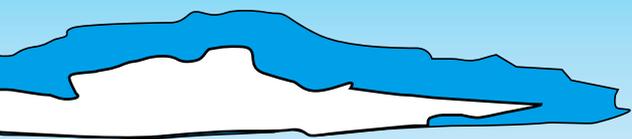
## 【共催】

東京都八丈島八丈町  
株式会社丹青社  
株式会社UD ジャパン

## 【主催】

NPO ユニバーサルイベント協会

※ 敬称略、50音順とさせていただきます。



## ユニバーサルキャンプ開催の意図

---

ユニバーサルキャンプは、ダイバーシティ（Diversity＝多様性、すべての人が含まれる）の考え方に立ち、年齢や障がいの有無にかかわらず、参加者へ、そして社会全体へ向けて、「みんなが一緒に生き生き暮らせる社会」への意識を喚起し、行動を身につけることによってユニバーサル環境の普及をめざしています。

そのため、豊かな自然の中で、キャンプという日常生活よりすこし不便な環境を味わいながら、誰もがそれぞれできることとできないことがあることに気づき、お互いに対等な関係で協力しながらサポートし合うという経験を通して、一人ひとりが尊厳を持つ対等な関係としての自立・自律をめざすとともに、その輪を広げていきたいと考えて実行しています。

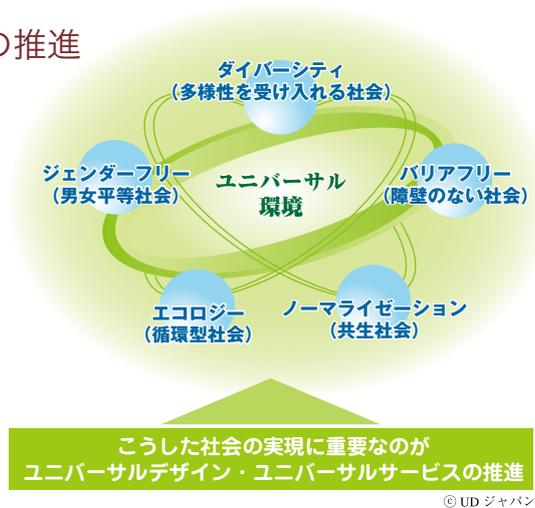
## ユニバーサルキャンプの概要

開催日程	2008年9月6日(土)～8日(月)
開催場所	八丈島 底土キャンプ場・その他
参加者数	109名＝企業研修参加者、一般参加者、スタッフ 33名＝八丈島ちょんこめ作業所 総勢142名 ユニボン参加者 八丈島の方々約50名 ユニボン総勢約200名
主催	NPOユニバーサルイベント協会
共催	東京都八丈島八丈町 株式会社丹青社 株式会社UDジャパン

## キャンプ運営のコンセプトとキーワード

### ■ ユニバーサル環境の推進

ユニバーサル環境とは、さまざまな特性を持つ高齢者も子どもも外国人も性別に関係なくすべての人々がその特性の違いを認め合い、共に生き生き暮らせる社会環境のことです。



### ■ CSRの根っこにはノーマライゼーションがある

これからの企業理念には、企業の社会的責任（CSR = Corporate Social Responsibility）を果たすという姿勢が明確に示されていることが“当たり前”になってきます。

そのCSRは、ユニバーサル環境が基本に据えられていることが大前提であり、その実現の切り口としてユニバーサルデザインの推進があるのではないかと考えています。

# 報告 1

---

## メインプログラム

- 事前研修
- キャンプ開始
- コラボ・DE・カレー
- ダイバーシティ・コミュニケーション
- ユニボン
- ユニスポ
- 事後研修

# 事前研修

キャンプで気づきを得るための土台づくり。  
ダイバーシティの理解と受容のために社会的背景と多様性を学びます。



車いすのサポート実習の風景。みんな真剣そのもの



講師の三原毅氏



内山早苗氏の講義に耳を傾ける参加者

参加者 20名

【日時】 2008年8月19日（火）  
10時～17時

【場所】 東京体育館

【講師】 内山早苗、岡村道夫、  
松村道生、三原毅

【カリキュラム】

1. オリエンテーション
2. 講義
3. サポートの基本と実習
4. 屋外でのサポート実習
5. グループワーク
6. リーダー研修
7. まとめ



## 午前中は講義とサポートの基本

午前の講義では、  
・ダイバーシティの重要性  
・現在の日本の状況  
・企業にとっての重要性  
・障がいの普遍性とダイバーシティを理解する  
という内容で進めました。

また、実際に障がいを持つ講師による指導で、車いす使用者、見えない人、聞こえない人への理解とサポートの基本を学び、午後の実習に備えました。

## 昼食中も体験実習

午前の講習が終わり、さあお待ちかね



01



お弁当を食べながら、視覚障がい体験



03



02

01. 公園へ出て視覚障がい体験 02. 車いすを持ち上げるのもコツがあります 03. アイマスクをしながら自動販売機でジュースを購入



思っていたより  
段差っていっぱいあるなあ

のどがカラカラになったところで、さあお茶タイム!といっても、アイマスクのまま自動販売機で飲み物を買ってみます。「何があるの?」慣れていないと飲み物の種類を説明するだけでも大変です。「届かない〜!」車いすだと、欲しい飲み物のボタンに手が届きません。な

りました。  
午後からは白杖や車いすを実際に使  
い、体験実習を行いました。  
みんなで車いすに乗ったり、アイマス  
クをつけて視覚障がい体験をしながら街  
へ出ましたが、障がい者をサポートする  
のは初めてという方ばかり。不便さを知  
識ではなく身体で感じました。車いすに  
乗っていると、ちょっとしたデコボコや  
坂道がとて大変。真夏日だったことも  
あり、みんな汗びっしょりになって頑張  
りました。

## 午後からは 屋外へ出かけ実習

の昼食タイム。2人一組になってアイマ  
スクをつけたら、「時計の文字盤になぞ  
らえてお弁当の説明をしてみましよう」。  
説明するほうも、実際に食べるほうも必  
死です。感覚が研ぎ澄まされ、いつもよ  
りおいしい……などと味わう余裕もな  
く、子どものようにポロポロとこぼし、  
笑い合いながらいただきました。

その後は、キャンプ参加説明会が行わ  
れ、多くの参加者との出会いが始まりま  
した。



キャンプでは班行動が基本です。今年  
は研修参加者の方々に班のリーダーをお  
願いすることになりました。  
今後、日本社会で必要とされる「支援  
型リーダー」の説明と、キャンプでの役  
割などについての話がありました。  
その後、今日一日での「気づき」をグ  
ループワークでまとめ、各自のキャン  
プでの目的を明確にします。「とにかく  
コミュニケーションが大切」「車いすは  
ちよつとした段差でも意外と大変」など  
など、たくさんの方の気づきを共有するこ  
とができました。

## リーダー研修と 今日の「気づき」

なんとか無事に全員飲み物を購入し、ほっ  
と一息つきました。  
どんな不便さがあり、どんなサポ  
ートをしたら一番良いかをコミュニケーショ  
ンしながら学びました。

# キャンプ開始

常夏の島八丈島で、熱い熱い夏の最後の思い出。今年もたくさんの方々の笑顔から、多くの気づきと感動が生まれました。

## ● プログラムの流れ ●

### ■ 1 日目

テント設営  
開村式  
リズム・DE・ダンス  
グループワーク  
コラボ・DE・カレー  
「語り」を聴く会  
夜のダイバーシティPART1

### ■ 2 日目

リズム・DE・ダンス  
朝の集い  
ダイバーシティ・コミュニケーション  
自由時間  
ユニバーサル盆踊り（ユニボン）  
夜のダイバーシティPART2

### ■ 3 日目

リズム・DE・ダンス  
朝の集い  
テント片付け  
ユニバーサルスポーツ  
閉村式



01. 視覚障がいの伊敷さんと聴覚障がいの西岡さん、車いすの森口さん 02. みんなで協力してテントを立て、一人一台のベッドを組み立てます



## テント設営

もっと当たり前前に誰もが生き活きと社会参加できないかな……。もっと多くのさまざまな特性を持つ人と一緒に活動して多様性を実感してほしい……。その気づきを自分の生活や仕事に生かしてもらえたら……。ユニバーサルキャンプはそんな思いから生まれました。

ユニバーサルキャンプ参加者一同が八丈島に到着すると、八丈島はピッカピッカの晴天！ 晴れ男と晴れ女の集うユニバーサルキャンプです。朝早くから集まった飛行機1便の参加者にはもれなくテント設営のプログラムがついてきます。サンサンと降り注ぐ太陽の光の中の共同作業。いつの間にか周りの人と仲



03



04

03. 内山村長の開村式での開村宣言。さあ、キャンプの始まりです！ 04. 八丈町役場の皆様。ご協力ありがとうございました 05. 毎年恒例の八丈町の大工さん手作りのスロープです



05



02

良くなっている自分があります。「え？障がいがあってもこんなこともできちゃうの？」「バリアフリーな場所って本当に少ないんだね」。早くも気づきがあったようです。

## 開村式

開村式での内山村長の挨拶から第4回ユニバーサルキャンプは始まります。司会進行は昨年に引き続き幸多朗さん。茶髪にヒゲの見かけとは違い、温かい心配りが行き届いたMCです。そして、誰かが前に出て話をするときには、さっと話し手の横に立ち、手を動かす手話通訳さん。そしてキャンプのメインキャスト、これから起こることにワクワクドキドキ顔の参加者の皆さん。総勢109名、全員揃ったところで、さあ、いよいよユニバーサルキャンプの始まりです！

## 感謝の思い

今年も、たくさんの企業の方、地元八丈島の方、本当に多くの方々のお力添えにより、第4回ユニバーサルキャンプが実現いたしました。

本当にありがとうございます。

# コラボ・DE・カレー

キャンプ初日、みんなで一緒にご飯を作って食べる。ありきたりのことですが、お互いの緊張をほぐしてくれ、グループの雰囲気づくりの強力な助っ人として欠かせないプログラムです。



## 隠し味はチームワーク！

みんなが仲良くなるには、一緒にものを作るのが一番！ 地元八丈島在住の「ちょんこめ作業所」のメンバーも加わり、いろいろな特性を持った仲間と一緒にカレーを作ります。

初めて顔を合わせた参加者たちは、初めは少し照れくさそう。ドキドキしながら作業を進めていきます。「聞こえなくても火加減ってわかるの?」「見えなくてもタマネギって目にしみるのかな。」

料理が得意そうな人が苦手だったり、その逆があったりと、さっそくお互いの意外性に気づきます。

コトコトとおいしい香りが漂うころには、なんだかすっかり仲良しに。

「おなかすいた〜! いただきます〜!」



## 気づきのノート

このキャンプで思ったこと、知ったこと、ひらめいたこと、なんでも書いてよいノートです。

各班に1冊ずつ配られた「気づきのノート」。カレーを食べたら、さっそく皆さん書き込みをしてくださいました。

- ・ グループ全員がうまく役割分担を回れたことが良かった
- ・ 初めて会った人たちと、こんなにおいしいカレーが作れてびっくり!
- ・ 火加減は肌で感じた
- ・ かまどが限られていたので、他の班とも協力することができた
- ・ 男性がとても積極的だった♡
- ・ 障がいがあるから難しいと思うのは大きな間違いだった
- ・ カレーに集中しすぎて、配慮を忘れることもあった
- ・ 具体的に細かく伝えれば、見えなくても普通にできることを知った
- ・ 一緒に作業を進める＝コラボを実感できた



01. シーフード、豚肉、鶏肉、野菜、何カレーにしますか? 02. おいしいカレーを作るのに大切なうま味のカギは役割分担とチームワーク 03. だんだんおいしそうにできあがってきました 04. できた!! 05. カンパイ!!! 満面の笑顔です



また忘れてはいけないのが、ユニバーサル環境のコンセプトのひとつである、循環型社会(エコロジー)。ユニバーサルキャンプではゴミゼロ運動を実施しています。

野菜の皮だって、きれいに洗えばそのまま食べられます。食器も最後はパンでキレイにぬぐって食べれば洗剤をたくさん使わずにすみます。大自然の中のキャンプだから普段より環境への気持ちは高まります。

## ゴミゼロ運動

班の中に1人だけ、カレーの賞の名前を考える人をこっそり仕込んでおきました。どんな賞の名前になったのかは、最終日の表彰式で発表されました。「みんなでチキンとおいしいカレーができたで賞」「初めての共同作業、ドキドキわくわくだったで賞」などなど、カレー以上に凝った(?)ネーミングもありました。

## みんなでおいしくできたで賞

「す!」  
最後は、他の班の味見めぐりで、カレーの輪が広がりました。

# ダイバーシティ・ コミュニケーション

聴きたいこと、なんでも聴いてしましましょう！  
多様性を受け入れて他者の違いに触れたとき、参加者は何を発見するでしょう。



## 違いは楽しい

ダイバーシティとは、多様性の享受。誰もが違う、誰もが何かを持っている、みんな違うのだから、障がいも特別なことではない……。

そんな観点から、他者との違いを知り、その能力に気づき、コミュニケーションや行動を工夫するきっかけをつくる。それがダイバーシティ・コミュニケーションプログラムです。

障がいを持つ人に、その障がいのことを聞いたら失礼だと思いませんか？ けれど、互いをわかっっていないければ、心から関わることはできません。

「誰も自分と同じ人はいないんだ！自分とは違う、でもその違いって面白い！」。そう思えたとき、初めて相手に



尊重し、思い込みのない、きちんとお互いの立場を認めながらのコミュニケーションができるようになるのではないのでしょうか。

そして、商品やサービスシステムに由来とは全く違う発想ができ、新たなイノベーションが生まれるのではないかと思います。

## 6つの個性の部屋

晴天のもと、南原スポーツ公園のただっ広い芝生の上に、赤と青のタープテントが6つ、はためいています。これからこのテントの下で、さまざまなドラマが生まれます。

音・光・動き・関わり・八丈・文化と、それぞれ名前をついた6つの部屋で、見えない人、聞こえない人、手足の動きに



芝生がとっても気持ちいい。南原スポーツ公園



タロさんの宣言で、ダイバーシティ・コミュニケーションは始まります

ユニバーサルキャンプ  
司会進行の幸多朗です。  
キャンプにくると解放されて、  
こんな格好になっちゃいます。



暑い中、長時間でも「時間が足りなかった！」の声が多いダイバーシティ・コミュニケーション。  
これからもキャンプの目玉として、毎年変わらず、でも進化しながら進めていきたいと考えています。

主人たち同士も、打ち合わせや情報交換をする中で、親交を深め、新たな気づきに出会います。大自然の中で語られる当事者たちの飾らない言葉は、来訪者の胸にしみていきます。

部屋では、まず主人の話を聞き、そしてなんでも質疑応答していきます。自分のこと、同じ障がいを持つ友人のこと、日々の暮らし、悩みなど……。話を聞いていると、ひと口に障がい者といっても、状態もニーズも考え方もさまざまだからということを実感します。

不便さのある人、外国から来た人、八丈に暮らす人など、さまざまな特性を持つ主人が待っています。  
「聴きたいこと、なんでも聴いてしましましょう！」  
進行役のタロさんの一言で、訪問者たちは一斉にそれぞれの部屋へ向かい、グループごとに、約3時間かけて6つの部屋すべてを回ります。



炎天下の中、どんな話を聞けるかわクワクワ



ダイバーシティ・コミュニケーション

音の部屋

コミュニケーション  
ってなんだろう？

聴き、コミュニケーション  
とは何かを考える部屋。

手話ができなくても大丈夫。ボ  
ードやジェスチャーなど、さまざま手段  
を使って語り合います。

会社でのコミュニケーションの工夫  
や、自分が受けてきた教育の話、指を使っ  
たパントマイムなど、多才な主人たちが  
熱いトークを繰り広げました。

「一番便利な  
ツール？ それは  
人。考えることが  
でき、優しさがあ  
り、可能性がある」  
と、アッシャーシ  
ンドローム（盲ろ  
う）の藤田さん。



ダイバーシティ・コミュニケーション

文化の部屋

日本にも外国にも  
素敵な文化がたくさんある

外国の文化、日本の文化、  
さまざまな文化による違  
いを聴く部屋。

今年には4人の外国人  
と日本文化に造詣の深い  
1人の日本人に主人をお  
願いしました。異文化間の悩

みや受け入れるコツ、日本の文化に  
ついてなどのお話がありました。

イギリス人のトニーさんは「日本人と  
結婚し日本に住み日本語で話す毎日。自  
分がナニ人か？ なんてどうでもいい」。  
あえて日本語を封印し、集まったメン  
バーから「通訳」を選んで英語でスピー  
チしてくれたAさん。「通訳の難しさや、  
元の英語をどこまで理解できるかをみん  
なに考えさせ、「このプログラムに新た  
な側面を加えられているといいな」。



ダイバーシティ・コミュニケーション

光の部屋

知らない世界に  
皆驚愕！

視覚障がいの方の話  
を聴く部屋。

「スーパーで買い物の相談  
やアテンドをしてもらっているう  
ちに、店員さんたちと仲良くなって、今  
は一緒に旅行に行ったりもするん  
です」と笑顔で話すあっこさん。

「三灯式の信号は大丈夫だけ  
ど、位置情報がない一灯式の信  
号機が困るんですね。赤の点  
滅と黄色の点滅の区別ができなくて  
……」。と色覚障がいの田中さん。

太鼓の名人松村さんは、全盲のプログ  
ラマー。専用ソフトを使い、打ち込んだ

文字を音  
声に変え  
てフィード  
バックを受  
けながらプ  
ログラミン  
グしていき  
ます。「IT  
の進化は  
本当にあり  
がたいです  
ね」



## 動きの部屋

本当のバリアフリー  
ってなんだろう

肢体に不便さのある人  
の話を聴く部屋。

車いす使用者だけでなく、  
手足にマヒがある人も主人

です。

年齢も障がいの状態も

違う主人の話に、共感  
したり、感動したり。

「階段の上にあるお  
店は、閉まっているの  
と同じ」(なるほど)

「24時間障がい者なわけではなく、移  
動時に環境や条件が悪いときだけ障が  
い者になる」(そうか！)



「自分の体が動かなくなつて、人を思い  
やれるよう  
になった」  
(強い！)  
「障がい  
は乗り越え  
るものでは  
なく、これ  
が普通の自  
分。今まで  
も、これか  
らも」



## ダイバーシティ・ユニバー サル・キャンプ

## 八丈の部屋

もつと八丈島を知りたい！



八丈島の人に、島について語ってもら  
う部屋。

島の魅力や歴史以外にも、今年はこちら  
こめ作業所の皆さんにも、主人をお願い  
しました。八丈島は情け島。昔、流人を優し  
く受け入れたという精神が、今も受け継が  
れているのだそうです。5、6年住むと八  
丈島に合う体質になる、と話してください  
たIターンの神部さんは、食用廃油からリ  
サイクルしたバイオ燃油においを嗅ぎた  
いという人のために、翌日またわざわざ来  
てくださいました。高橋さんの八丈の海の  
話に「来年はダイビングしたい」と車いす  
の岡村さん。

ちよんこめ作業所のユウキ  
くんの恋の話には、みな涙  
涙。島の魅力とほっこりし  
た優しさに包まれた八丈の  
部屋でした。

## 関りの部屋

人の数だけ考え方や  
生き方がある

若い人も高齢  
の人も、人

の数だけ考え

方や生き方がある。そん  
ないろいろな人と関わる  
部屋。

「五体は満足。でも自分はどこか足りな  
い部分があると感じるんです」と語るの  
はOさん。コミュニケーションが苦手な人  
は引きこもりになりやすく、多様な考え  
方で内面を引き出してくれる人が助けに  
なるのだそうです。

「家族内でなんとかしようというのは  
日本の悪いくせ。一人で抱え込んでダメ」



と語るの、  
認知症を発症  
したご両親を  
介護している  
東海さん。「ご  
近所さんや周  
りの人に支え  
てもらってい  
ます。おせっ  
かいが大事  
なんです」。



# ユニボン

地元八丈島の方々と思いつきり楽しもう！  
参加者も、地元の方も一緒に歌って、踊って、笑い合う。



## 八丈島の特産品が いっぱい！

せっかく訪れた八丈島。キャンプ参加者と地元の方との交流を深め、八丈島の特産品をいっぱい味わえる場がほしい。八丈町の方々の多大なる協力を得て、ユニバーサル盆踊りを毎年開催しています。ユニボン会場に着くと、まず目に飛び込んでくる屋台の数。

大賀郷婦人会の皆様、朝市会の皆様、ちよんこめ作業所の皆様にご協力いただき、たくさんさんの屋台を出していただきました。

八丈島特産品の島寿司はもちろん、くさや、天ぷら、魚丸焼き、島酒、などなど。どの品も本当においしいので何を食べようか迷ってしまいます。中でもパッションフルーツに焼酎を入れて飲むという



う八丈島ならではの飲み方が大好評。会場いっぱいには、参加者、地元の方の笑い声も、地元の方とおしゃべりして、こんなにも多様な特産品は味わえないかも……。みんなキラキラしながら八丈の郷土料理を堪能していました。

あしたば、ネリ、四角豆、メダイやくさや等の八丈島のめずらしい食材たち。「どうやって食べたらおいしいですか？」地元の方にアドバイスを頂きながら購入していました。ちよんこめ作業所のぬくもり感じる手作り手ぬぐいなど、雑貨類も充実していました。

## 踊れや歌えの 大交流大会！

メイン会場では、参加者でもあるダンスサー Kayoko さんがオープニングダンス



02



01

01. みんなと一緒に 02.笑顔が素敵なフラダンスチーム。フラダンスも教えていただきました 03. おいしい八丈島特産の島寿司



03



## 気づきのノート

ユニボンでもたくさんの気づきと感動がありました。

- ・ ちょんこめさんの「第九」が素敵でした！
- ・ 踊りなんて全然できないと思っていたけど、みんなで輪になって一緒に踊ったらすごく楽しかった！
- ・ 壁は自分の内からできるもの。自分から外していけば、どんどん壊れていく
- ・ とにかく体を動かすのは楽しい。ダンスと大きな笑顔、ここに障がいなんて何も感じなかった



続いて昨年から参加いただいている、八丈島のフラダンスチーム「カ・マカニ・オ・ハチジョウ」が登場。笑顔が素敵なフラダンスチームに、会場のボルテージは最高潮。フラダンスは一つひとつの動きが手話だということもあり、みんなで説明を受けながら、楽しく踊りました。最後は、Kayokoさんと地元の方も一緒に「リズム・DE・ダンス」を踊りました。誰でも簡単にできるかわいい振り付けと、軽快なリズムにのって会場が一体となり、とても熱い熱い夜が過ぎてゆきました。

さらに、ちょんこめ作業所の皆様は手話コーラスつきで「第九」を披露してくださいました。このちょんこめさんの「第九」は、全国各地で公演を行っているもので、多くの人に感動を与えています。皆さんの温かく気迫の込められた歌声、指揮、手話。ユニボン会場が感動の空気に包まれました。

を飾り、ユニバーサル盆踊りが華々しくスタート。地元婦人会の皆様、加茂川会の皆様、浴衣や黄八丈の帯のとても素敵な衣装で登場。「八丈音頭」「炭坑節」「しゅちよさ」「なじよまま」「おいとこ」を踊ってくださいました。「炭坑節」などは、「掘って掘ってまた掘って、担いで担いで」など、言葉の振り付けも加えながらみんなで踊りました。

# ユニスポ

アイデア爆発。個性光るユニバーサルスポーツ。  
今年もたくさんの新しいスポーツが生まれました。



## 最終日はユニスポ！

最終日はすべての締めくくり、ユニバーサルスポーツ。3日間ため込んだ気づきを出し合い、体を労りながらスポーツを楽しみます。

ユニバーサルスポーツとは、障がいや年齢にとらわれず、そこにいる誰もが一緒に楽しめるスポーツを提案・実施することです。既成概念を打ち破って、そこにいる人や道具に合わせて知恵を絞って、考える過程、行う過程のどちらも大切な要素になります。

今年言葉のカードがヒントです。「なげる」「ける」「とぶ」「つなぐ」「ひく」「はしる」「ころがる」「うつ」「おす」、どのカードを何枚選んでもかまいません。3人一組になって、スタートから20メートル



ルほど先の折り返し地点まで進み、戻ってきてゴール。

カードと音の出るボールやカラー棒などの道具、そしてメンバーの特性を考えながら「一緒に楽しめた！」と思える競技を考えます。最初に全員でじゃんけんをして勝った人はアイマスクをつける。「車いすだけど投げたり転がすのは平気だよ」。「見えなくても走れるよ」。あらためてさまざまな特性を考えるきっかけになります。「どうやったら伝えられるかな？」ノートメイクをしながら楽しめるルールを考えます。そして出会った時よりも、はるかにコミュニケーションがとりやすくなっている自分たちに気づくのです。

## お披露目タイム

コミュニケーションを楽しみ、アイ



# 事後研修

キャンプでの体験や気づきを整理し、今後の仕事にどう活かすか。気づきを具体化することを目的に行います。



参加者 20名

【日時】 2008年10月8日(水)  
10時30分～17時

【場所】 国立オリンピック記念青少年総合センター  
センター棟

【講師】 内山早苗

【カリキュラム】

1. キャンプの感想(発表)
2. ワークショップ1
3. ワークショップ2
4. ワークショップ3
5. まとめ



## 驚きの連続だったキャンプ

キャンプからちょうどひと月ぶりの仲間との再会に、和やかなムードの中で始まった事後研修。ワークショップに入る前に、キャンプ前に立てた目標と、その評価や感想を、全員に発表してもらいました。

「目標どおり、前回より積極的にコミュニケーションをとることができた」「何度参加しても、新しい気づきがある」「自分の班以外の人となかなかコミュニケーションがとれず、来年の課題となった」「出発ロビーから、初めて体験「がスター」トした。車いすのアテンド、見えない人のガイド。なにもかもがびっくりの連続でした」



02



01

01. 村長改め、内山講師 02. キャンプでの気づきを付箋に書いて発表し、気づきを共有します 03. 他のグループの発表を聞くことで、さまざまな見方があることに気づきます



研修の後、みんなで飲みにいきました！



03



## 気づきを企画へ

その後、4つの班に分かれてワークショップが始まりました。ワークショップの気づきがどのように生かせるか皆真剣です。

### ワークショップ1

ワークショップでのそれぞれの気づきを付箋に書いて模造紙に張り、意見交換しながら、気づきをまとめていき、発表します。

### ワークショップ2

企画立案のポイントについての講義の後、ワークショップ1の気づきを参考に、あったらいい商品・サービスへの視点を考え、発表します。

### ワークショップ3

企画構想図を使ってさまざまなアイデアをひとつの商品・サービスへ落とし込み、10分間のプレゼンをします。

実現のための条件を抽出したり、反対意見を想定し対策なども考えます。

すぐにも実現可能なサービスから、夢の商品まで、見事な4つの企画ができました。

### ● 1班

「困ってます」と心で思ったことが文字になり、周囲の人にアピールできるシステム「KIKKAKE」。コミュニケーションのきっかけづくりが難しい人、今サポートが欲しい人を手助けします。

### ● 2班

文字・光情報はもちろん、ピクトや香り、マンパワーまでも集結した「楽伝（らくでん）システム」。公共交通機関利用の際に、緊急を伝えるサービス（ツール）です。災害が起きたら、隣の人の肩を5回叩くという斬新なアイデアも！

### ● 3班

点字や香り、あらゆる機能を搭載し、すべての人々との意思疎通を可能にする「マルチ・コミュニケーションボード」と、障がい当事者を、ダイバーシティ・UD講師とし、企業や学校などに派遣する「ユニバーサルシステム」。障がい者の雇用も生みだします。

### ● 4班

「フリー&Free」重さからの解放〜吹き付けると軽くなる不思議なスプレー。「重さ」による移動の不便さから人々を解放し、生産性・エネルギー効率を高め、環境破壊までも防ぎます。

# 感謝の気持ち

## UDトイレ

底土キャンプ場にはユニバーサルトイレがありません。

毎年バイオセレントさんにポータブルトイレをお借りし、地元の方々のご協力を得てUDトイレを「手作り」しています。今年はキャンプ場にUDトイレができるはずでしたが…（現在、図面を引いているところだそうです）。そこで、今年も八丈電設さんにご協力をいただき、UDトイレを設置していただきました。より使いやすいトイレをめざし、毎年バージョンアップしていただいております。



## シャワー

今年は、女子シャワーのまわりをブルーシートで囲い、シャンプーやランタンなども設置。安心

で快適なシャワールームとなりました。車いすの人が着替えの際に移乗するいすも、地元の方のお宅からお借りし、更衣室に設置しました。ご協力いただきました島の皆様、本当にありがとうございました。

## 筑波技術大学

筑波技術大学産業技術学部総合デザイン学科において、このキャンプがインターンシップとして認められ、聴覚障がいを持つ現役の学生さん2名が参加されました。

## 名札

八丈島の特産品をモチーフに、班ごとに違うイラストが入ったオシャレな名札。デザイン

は聴覚障がいの西岡さんと山下さん、点字シールは視



点字シール

覚障がいのあっこさんが作ってくれました。コラボで素敵な作品ができました。

## PC通訳

聴覚障がい者の中には、手話よりも文字情報を希望する方が少なくありません。そこで今年はタイピング自慢の方々にご協力をいただき、PC通訳を行いました。PC通訳を見て「初めて全部わかった！」と感激してくださった松井さん。通訳するほうも「意外と難しい」「これからは自分が話す時もスビードに気をつけます」など双方にいろいろな気づきがありました。



# 報告 2

---

## お楽しみ

- 語り
- リズム・D E・ダンス
- 夜のダイバーシティ
- 自由時間



# VARIOUS EVENT

# 語り

## 川島昭恵さん

プロの語り部として「夢の鈴」を主催し、全国各地で語りの公演を行う。映画「津軽」に出演、第一回わたぼうし語り部コンクール入選、ルパン文芸会員など、活躍は多岐にわたる。ユニバサルキャンプには1回めから参加。



## 海辺の語り

1日めの夜、海を背景に、川島さんの語りを聴く会が開かれました。題目は『おかあさんの目』と『花をかう日』、そして川島さんご自身のお話。

真つ暗な草むらにさすが3つ。真ん中には川島さん、左右に手話通訳者が座り、ランタンの明かりが3人を照らします。後ろには、暗い海と波の音。

川島さんが一言声を発した途端、誰もが吸い込まれるように語りに耳を澄ませます。

今年も「日本手話」「日本語対応手話」の2種類の手話通訳がつかまりました。日本手話はろう者の言語、日本語対応手話は手話単語を日本語に合わせて並べ替えたもの。見比べる



とその違いは歴然です。「本物（ろう者）の日本手話はもっとすごいんですよ。ぜひ知ってほしい」と手話通訳者の大瀧さん。

「目の見えなくなった私にとって、語りは心の中に絵を描く作業と似ています」。川島さんの言葉は潮風と手話にのって、参加者全員の中のにも素敵な絵をいっぱい描かせてくれました。



## 心をオープンに

初日。開村式のすぐ後に、太陽の  
ような笑顔で登場したプロダンサー  
のKanosさん。どこことなく緊張し  
ていたみんなの顔もなんとなくつら  
れ、笑顔になってしまいうから不思議  
です。

見てわかり、聞いてわかる創作ダ  
ンスを青空の下で踊りましょう。車  
いすに座ったままでも大丈夫。「み  
ぎ！ ひだり！ ぐるぐるぐるぐる  
〜」

よく通る元気な声に合わせ、アフ  
リカ太鼓がトントコトントコ、  
ジャンベ（アフリカの太鼓）トリオ  
が花を添えます。

リズム・DE・ダンスは毎朝行わ  
れるプログラム。眠っている頭が手  
足とともに動き出し、心がほぐれて、  
みんな笑顔になりました。

## 自己紹介タイム！

班ごとに自己紹介をした後、チー  
ムワークを高める最初のプログラ

ム、ビリビリゲーム。

みんなで輪になり手をつなぎ、リー  
ダーが右手をギョツと強く握ったら、  
握られた人も隣の人の手を握ります。

その「ギョツ」が、うまくひと回り  
して元に戻ってきたら、リーダーは「O  
H!!」と言って感電したマネをします。  
どうかなあ？ うまくいったかな？

次はちよっと難しいよ。右を2回、  
左を3回。さあて、うまく戻ってくる  
かな？ 手の感覚がない人には肩を叩  
いたり、目の見えない人がわかるよう  
に大げさに「おおおうっつ！」としび  
れたり。

どこの班からも拍手や笑い声が聞こ  
えてきます。スキンシップで一気に距  
離が縮まりました。



## リズム・DE・ダンス



# 夜のダイバーシティ

## バー・イン・ザ・ダーク

テント横の真つ暗なスペースに、今年も刺激的なバーが開店しました。

目隠しをして店に入り、手探りで席に座ると……「いらっしやいませ」。前方から声がします。ここは、見えない人がマスターを務めるバー・イン・ザ・ダークです。

「飲み物は？」「とりあえず、ビール……」そわそわ待つと、冷えたビールとグラスが手渡されます。ビールを注ぐのもひと苦労。あたふたしている。「持ち上げて重さを

確認したり、内側に指を入れたりすると、こぼさず注げますよ」とマスターからのアドバイス。本当は見えているんじゃないの？と思うほど、その感覚の鋭さに驚かされ、存在に安心感をもたらします。

「沈黙が怖くてずっと大



きな声で話したり、みんな見えなのに、一生懸命うなずいている自分に気づいておかしかった」というのはA子さん。「相手の反応に気を取られない分、より深い会話ができ」というのはイギリス人のKENさんです。

お互い触れ合いながらのジェスチャーなどでビールを頼み、太鼓のセッションで盛り上がっていた聴覚障がいのみなびーさん。「伝えたいと思う気持ちがあれば大丈夫！」

## バー・イン・ザ・サイレンス

ここは、聞こえない人がマスターのお店。

ルールは一つ。音声によるおしゃべり禁止です。習ったばかりの手話で自己紹介したり、手話やジェスチャー、筆談などで伝え合います。「おー!」「へー!」「まじ!?!」「なるほど!」誰かの話の後には、感嘆詞を書いたボードが次々に上がり、なんとも不思議な盛り上がり。



## Bar 葵

恒例のBar 葵も今年で4年め。今年はより品揃え豊富に、ちよいとワルオヤジマスターも元気に開店しました。

立ち飲みテーブルの周りに、ふらりふらりと人が集まり、気づけば大宴会状態。国際情勢からおやしギャグまで、幅広い話題で盛り上がります。初参加の人もすぐに打ち解けて、毎晩楽しい宴となりました。



## オーラソーマ

ますみさんのキラキラオーラソーマ。104本のカラーボトルの中から直感で4本のボトルを選び、潜在意識や未来などを見るカラー診断です。

多くの希望者が集まる中、抽選によって選ばれたラッキーな参加者は皆興味津々に話を聞いていました。

## 光るキノコツアー

島の方のご協力により、ついに実現しました。町の明かりが届かない漆黒の闇の中、フェニックスの根元に点々とつづく小さな光。見上げれば、一面の星空に天の川がくっきり。日本一幻想的なツアーです。

## スターウォッチング

星座早見表と懐中電灯を持ったら、星空を見にしみけん先生について行こう!

夜空を見上げ、星座の探し方、ギリシャ神話、地球の未来、いろいろな話を聞きました。



## ダイビング

「ダイビングしてみたいー!」  
体験ダイビングに申し込んだ8人  
中なんと5人が障害者手帳取得者で  
した。

手話は海中でも自由におしゃべり  
できるため、デフダイバーはたくさ  
んいますが、今回は全盲のあっこさ  
んが是非に!と挑戦。

一緒に潜りたい!とベテランダイ  
バーのミホさんも、体験ツアーに参  
加しました。八丈島が障がい者ダイ  
ビングのメッカになる日も近い!?



## 温泉

自由時間には毎年大好評の「八丈  
秘湯ツアー」。八丈島の温泉は、色  
も味も不思議なお湯。目の見えない  
方に「麦茶みたいな色だよ」「いや  
薄めたカフェオレだ」なんて教え  
たり、しょっぱい味にびっくりしたり、  
大はしゃぎ。

普段は気にならない浴室内の段差  
や滑りやすい床、それからちよつと  
したタイルの割れ目がどんなに危険  
なのかも実感し、たくさんのおつき  
が生まれました。



# 自由時間

## レンタサイクル&バイク

みんなでツーリング。登龍峠くくネクネの山道く八丈富士・底土キャンプ場が青い海の中に浮かぶ絶景ポイントく三原山一周くマイナスイオンたつぷりの木々の中をブンブンく大坂トンネルく八丈富士と八丈小島・大賀郷の町一望く八丈富士く南原千畳敷。

3時間の自由時間をフルに使って、島内一周。やった！



## ビーチ

今年もビーチにはキャピキャピ戯れる大人たちの姿。

車いすのタロさんもポチャさんも気持ち良さそうにチャプチャプ遊泳。浮輪で優雅に波乗りする人、ぐんぐん沖に向かって泳いでいく圭冒の松村さん、その後ろからドキドキハラハラしながら泳いでいく村長。

太陽の光に照らされて、思い思いに気持ちの良い時を過ごしました。



## 釣り

釣り好きのおじさんも釣り初心者の子も、「夜のおつまみを捕獲せよ」のミッションのもと、底土港の防波堤でムロアジ釣りに挑戦。

地元のインストラクターの「ムロアジの大群が来たぞ〜！」の合図をきっかけに、仕掛けを落とし、コマセをバラまきスタート！

八丈島の海はまさに天然の水族館状態。テクニックはいりません。次から次に釣れるムロアジに参加者は大はしゃぎ。釣った後は氷で絞めてプリプリの刺身に、夜はムニエルに大変身しました。



# アンケート結果

(原文より一部抜粋)

## ◆参加のきっかけ

- ・紹介 16人
- ・企業参加 19人
- ・以前参加したから 8人
- ・その他 9人

・友人がこのキャンブに2回参加していて、すごく楽しいよ、と教えてくれたので。

・大学の研究室の教授がこのキャンブを勧めてくれた。

・手話サークルでの紹介。

・昨年初参加して、楽しかったから今年も……。来年も参加します！

・障がい者の一員として、さまざまな障がいを知るべきだと思ったから。また、ユニバーサルスポーツを学びたかったため。

## ◆楽しく参加できたか

- ・はい 51人
- ・いいえ 0人
- ・返答なし 1人

## ◆印象に残ったこと

・全体を通して、何かしなくちゃいけない、発言しなくちゃいけない、ということがなく、自分で感じることに

が第一、というこのキャンブの姿勢にすごく感動しました。

・障がいのある人の前向きさ、パワフルさにふられたこと。

・お互いに助け合うことが、とても自然なことだと感じられました。

・大きなプログラムとは関係ない細やかな部分でも、色々な気づきや心くばりが光っていた。

・最終日のお別れの時、3日間をのんで感極まって班の人たちが泣いてしまったこと。

## ◆プログラムの内容

- ・よかった 40人
- ・まあまあだった 5人
- ・あまりよくなかった 0人

## ◆プログラムの量

- ・多い 7人
- ・丁度よい 36人
- ・少ない 1人

## ◆印象に残ったプログラム

・ダイバーシティ・コミュニケーション  
様々な障がいの実態をこれ程あからさまに聞くことができる機会を他に知りません。

・いろいろな人の生い立ちや、考え、夢などを聞くことができ、その人と話してみたい、と思わせるプログラムでした。

・多くの人に自分の話を聞いてもらえて、ありがたいと感じました。

・行動観察だけではわからなかったみなさんの『思い・気持ち』を知ることができた。

## ユニボン

・ちゃんこ作業所の皆様のベーター・ペンの第九……感動しました。

・八丈島の様々な人と交流し、文化に触れられた。

・車イスで盆踊りは何年ぶりかでした。

## コラボ・DE・カレー

・全員で野菜を洗ったり切ったり協力しておいしく食べられたから。

・目の見えない方が野菜を切ったりするのを見て驚きました。

## ユニバーサルスポーツ

・障がい、健常問わず、一緒に考え、遊び、楽しめました。

・工夫すれば何でもできる、アイディアは無限にある、と思いました。

## 夜のダイバーシティ

・いろいろな人と酒を飲みながら話すことができて楽しい。

・サイレント・バーとバー・イン・ザ・ダークは、本当に楽しかった。両方セットで行くとより特徴が感じられた。また違う班の人とも交流できた。

## 語り

・語りのすばらしさはもちろんですが、2種類の手話を比べて見られたことも良かった。

## リズム・DE・ダンス

・ダンスを見ていて、ダンスを始めたくなりました。

・Kanosさんの笑顔が素敵でこちらまで元気になりました。

・バー・イン・ザ・ダーク  
自分から声をかけるのでできない私たちにとって、二晩のバー・イン・ザ・ダークは、多くの人とコミュニケーションでき、すてきな場所でした。

・わたしは聴覚障がい者なのでものすごくコミュニケーションが大変でした。それでも通じた時にはものすごく痺れました。

## バー・イン・ザ・サイレンス

・いやに盛り上がった。

・私は手話をひとつもできない状態で参加したのですが、自己紹介の手話を教えてもらったり、筆談でたくさんお話ししたのがうれしかったです。できるんだって。バーのみなさんが、やってみると後押ししてくれ、触手話にもチャレンジすることができました。

## ◆改善したほうが良い点

・ユニバーサルスポーツは総評や振り返りをした方がよい。目の悪い人への説明が難しい。

・確かな情報保障が欲しい。話が早すぎて、手話を読み取れないことがあった。

・もう少し、自然と戯れる時間があつたら、八丈の良さをもっと知ることができたかも。

・点字のしおりがあると良いな。

・自分で食べるものは、自分で作つ

た方がいなので、もう少し食事に関わる部分が欲しい。

・もっと違う班のメンバーとも交流できる場面があってもいい。

・説明の声がよく聞こえないため、もっとハッキリさせた方がよい。

・もう少しプログラム間の時間をゆつたり取ってもいいかな？

・天候的にづらい部分があつたので、室内プログラムも検討してほしい。

・冷たいものがくればやはり新しい方を飲んでしまうので、まだ飲みきってないお茶や水がもつたいないねって声がありました。

・車いすの人のベッドがブワブワすぎて着替えをするのも大変だったと聞きました。

・最終日に班で感想などを話せる時間が欲しかった。

・ダイバーシティ・コミュニケーションのテント、参加者100人まで無理やりやられても、これ以上参加者が増えると、あの暑さの中参加できぬ人が増加するのでは。

## ◆ほつぷプログラム

・ユニバーサルツアーズという今までとは全く違う3日間はいかがでしょう。

・手話を覚えるプログラム。

・一緒にモノ作り。絵を描いたり、町に役立つものを作つたり、感性を刺激するようなもの。

・各日の終わりにその日のプログラムの感想や気がついた事を班ごとで話し合う時間。

## ◆テントではよく休めたか

- ・はい 28人
- ・まあまあ 13人
- ・いいえ 5人

## ◆コミュニケーション

- ・うまくとれた 23人
- ・まあまあ 21人
- ・とれなかった 3人

## ◆コミュニケーションの方法で気づいたことは

- ・質問をしたり答えたりする時間がもう少しゆつくりとあったらよかった。
- ・とにかく、話してみることに。気がついていたら、見ているだけではしようがないので行動すること。
- ・Communication is more feeling than thinking. (コミュニケーションは考えるより感じること)
- ・目が悪い人より耳の悪い人とのコミュニケーションが難しい。但し、ユニバーサルスポーツは両方の人も難しい。
- ・まず、相手の話や表情を見ることが大切だと思いました。
- ・私は視覚障がい者です。携帯電話のメール機能を利用して、聴覚障がいの方と会話ができるようになった時は、本当に嬉しかったです。
- ・手話ができるだけでもダメで、心からコミュニケーションできる人が強いしステキなこと。
- ・表情やアクション、声の強弱の重要性。
- ・手話が理解できるようになりたい。
- ・人として普通に付き合えばいい。
- ・手話ができなくても表情をわかりやすくしたり、ゆつくり口を大きく動かすだけで伝わりやすくなるのだなあと感じました。

## ◆自分自身の考え方や行動が何か変わりそうか

- ・このイベントを海外にまで広めた。世界中の人々がダイバーシティをクリエイティブに考えるための英語のブログを配信したい。
- ・自分自身の障がいも意識した。
- ・相手の立場に立って、人の気持ちのわかる人間でいたいと、強く思いました。
- ・何か手伝えることはありませんか?と、自然に言えるようになった。
- ・障がい者の方の色眼鏡で見えていたが、まったく変わらないということが本当によくわかった。
- ・私の地元、広島でも何かきっかけを作れたら……と思いました。
- ・自分の障がいをもっとみなさんにわかるように自分からPRする必要があると気がつきました。
- ・自分の当たり前を押し付けてはいけなさと感じた。
- ・街で障がいのある方に会っても、ためらいなく接することができるだろうなと思っています。

## ◆八丈島の印象は

- ・よかった 44人
- ・まあまあ 2人
- ・つまらない 0人
- ・ちゃんこめの方、バスの運転手の方、空港の方、キャンプ場の方、皆さん非常に心温かくフレンドリーな印象

を持った。

- ・とつてもよかったです。温泉のおばちゃんも気さくだった。
- ・自然が美しい。ユニボンでの盛り上がりは最高でした。
- ・夜の星空が綺麗だった。
- ・空港にいた時から、透きとおった空気を感じ、潮の香りや鳥の囀りや波の音、本当に落ち着きました。
- ・どこもとても綺麗で、島や人へのホスピタリティに溢れていると感じました。
- ・火山島のため砂浜が少ないのが残念です。
- ・南国のだけど、でも日本って感じがすくなくて、それが心地よかったです。
- ・海はすくすきれいでした。浜辺にゴミが落ちていたことも無く、町のみなさんが島を大切にしていることが伝わってきました。

## ◆八丈島に望むことは

- ・大自然をそのまま残してほしい。
- ・新しいツアー(外国人や日本人が様々な選択ができる)のアイデアや技術を試すテストゾーンになればよいと思います。
- ・八丈の方言をもっと知りたいです。
- ・大変だと思いますが、来年もぜひユニキャンを応援してほしい。
- ・空港にネリとか島の野菜がもっとあったらいいな。
- ・ハワイや沖縄を感じさせる気候と南国情緒を持っているので、自然と共存しつつも、もう少しマリニリゾート地として再開発してもいいのでは……。
- ・コンビニが欲しい。
- ・キャンプ場にはお湯の出るシャワー

と洋式トイレ、車いすトイレがあると嬉しいです。

夜のダイバーシティに役場の方も参加してほしかった。

## ◆また参加したいか

- ・はい 42人
- ・いいえ 1人
- ・わからない 3人

## ◆このキャンプで感じたことや意見を自由に

- ・とてもうまく計画され実行されたイベントだったと思います。ただ、イベントランナーたちの話が少し長かったかな。もっと班を越えた共同作業や交流があってもよかったです。
- ・参加者の中には1人2人、体操選手とか、陸上選手とか、サッカー選手のような真のアスリートを招待してはどうかでしょうか。来年は中田英寿とかをこっそり呼ぶとか。
- ・聴覚障がい者に限るなら、日本語・日本語対応手話の各々の通訳者の手配、ノートテイクの準備(班には、なかなか出てこない)。私がします。に聴覚障がい者は安堵してくるもの。どんな障がいを持っていても、本当にできないことって、実はとっても少ないんじゃないかなって思いました。それは、個人個人の努力だったり、周囲の援助だったりするので、一人一人の気持ちがあれば、同じ空間で、全ての人が、同じ喜びを分かち合ったり、楽しさを共有できたり、共に悲しんだりできるんだなって思いました。

なっていました。

これまで、こんなこと聞いてもいいのかな?とか、タブーに思えるようなことも自然と聞ける空気が作れているオープンな感じは、この活動が続いている証だと思います。

今回参加していた障がいのある方は明るく、悲観的な印象は受けなかった。むしろ健常者である自分自身の方が小さなことで悩み自分の行動を必要以上に制限し、小さな世界で生きていくように感じた。ただ、今回の参加者のように明るい方は多くはなく、実際はすくす悩んでいる方も多くはいる。そういった方々とのように付き合うかを考えることもとても重要なことなのではないかと感じた。

「人はみんな同じ生き物だ」  
「ユニバーサル」に対する聴覚障がい者の位置づけについて考えさせられました。障がい者という枠組みで考えれば他の障がい者と同じ位置づけですが、言語圏という枠組みで考えれば孤立しやすい存在(夜B&Bがはっきりと示しており、実際他のB&Bへ行きづらかった)なので、改善が必要になると思いました。  
八丈島に行くまではすく不安でした。このキャンプを通じて、相手のことを本気で知りたいと思いがらコミュニケーションをとるとなんとかなるものだと思います。



## ユニバーサルキャンプは これからも毎年続いていきます…

ユニバーサルイベント協会では、ユニバーサルキャンプや、その他さまざまなイベントと一緒に盛り上げていってくれる方を募集しております。  
スタッフとして、また協賛や賛助などで一緒にイベントを創り上げてみませんか？  
皆様のご参加・ご協力を心よりお待ちしております。

### ユニバーサルキャンプ支援パートナー

主に企業などで、ユニバーサルキャンプの実現・普及を以下の面から支えてくださる方

- 資金面での協賛 1口 50,000円より
- 物品・サービス等の面での協賛
- 研修協賛（ユニバーサルキャンプ参加、事前・事後研修） 1人 150,000円

### 会員パートナー

正会員：本会の目的に賛同し、活動に参加していただける法人・団体または個人

- 法人 100,000円
- 個人 12,000円

賛助会員：本会の趣旨に賛同し、活動に協力していただける法人・団体または個人

- 法人 50,000円
- 個人 7,000円

### 協賛・協力パートナー

主に個人、NPO、企業などで、以下の面についてご協力いただける方

- 計画から実施運営までのノウハウの提供、人的支援協力
- 活動を広げるためのネットワーク連携企画・活動などの実施

### お問い合わせ

NPO ユニバーサルイベント協会  
〒108-0075  
東京都港区港南2丁目12番27号  
イケダヤ品川ビル3F

- TEL：03-5460-8858
- FAX：03-5460-0240
- E-mail：info@u-event.jp
- URL：http://u-event.jp/

### 交通のご案内

- JR各線「品川駅」徒歩8分
- りんかい線「天王洲アイル駅」徒歩12分
- モノレール「天王洲アイル駅」徒歩8分

